

SONY

電波式ワイヤレスコマンドー FA-WRC1M

ご使用前に

- [カメラのソフトウェアについて \[1\]](#)
- [お使いになる前に必ずお読みください \[2\]](#)
- [主な特長 \[3\]](#)
- [各部の名称 \[4\]](#)
- [画面表示 \[5\]](#)

準備する

- [電源を入れる \[6\]](#)
- [ペアリングする \[7\]](#)

撮影する

- [MENUでできること \[8\]](#)
- [グループについて \[9\]](#)
- [ワイヤレスフラッシュ撮影 \[10\]](#)
- [リモートリリース撮影 \[11\]](#)

使用上のご注意

- [使用上のご注意 \[12\]](#)

[1] ご使用前に

カメラのソフトウェアについて

お使いになるカメラのソフトウェアを、必ず最新のバージョンにアップデートしてから本機

をお使いください。

カメラ本体との互換情報については、専用サポートサイトをご確認ください。

[2] ご使用の前に

お使いになる前に必ずお読みください

本機はマルチインターフェースシュー搭載のソニー製レンズ交換式デジタルカメラと組み合わせてご使用いただけます。

組み合わせて使うカメラの機種によって一部動作しない機能があります。対応機種は専用サポートサイトをご確認ください。

本書とあわせて、お使いのカメラの取扱説明書もご確認ください。

本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機に雨がかからないようにしてください。

置いてはいけない場所

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。故障の原因になります。

- 異常に高温になる場所
天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
変形したり故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になることがあります。

シンクロ端子について

- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードを⚡（シンクロ）ターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュを⚡（シンクロ）ターミナルに接続して使用する場合は、シャッタースピードを以下のうち遅い方の値、またはそれよりも低速に設定してください。
 - カメラの同調速度
 - フラッシュ側が推奨するシャッタースピード

通信可能距離について

本機と電波式ワイヤレスレシーバー（別売）の通信可能距離は約30mです。

- 障害物や遮蔽物、他の機器との電波干渉がない場合の距離です。
- 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなる場合があります。

商標について

Multi Interface Shoe（マルチインターフェースシュー）はソニー株式会社の商標です。

[3] ご使用前に

主な特長

本機と電波式ワイヤレスレシーバー（別売）を使用して、複数のフラッシュを使ったワイヤレスフラッシュ撮影や、複数のカメラを使ったリモートリリース撮影ができます。

ワイヤレスフラッシュ撮影

本機を使って、電波式ワイヤレスレシーバー（別売）に取り付けられたソニー製純正フラッシュ（別売、以下フラッシュと記載）を電波式ワイヤレス通信でコントロールできます。電波式ワイヤレスレシーバーを最大5グループに分けて発光モードや発光量を設定することで、さまざまな状況でのフラッシュ撮影に対応します。複数のフラッシュを使ったTTLフラッシュ撮影やマニュアルフラッシュ撮影、ハイスピードシンクロ撮影（HSS）などができます。

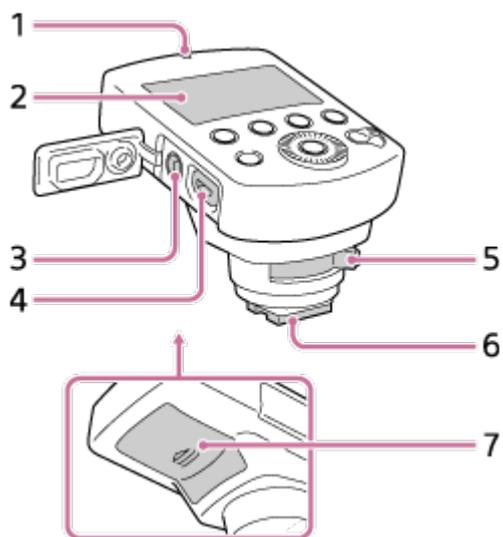
リモートリリース撮影

本機を使って複数のカメラを同時にリリースさせることができます。ひとつの被写体をさまざまなアングルから同時に撮影できます。

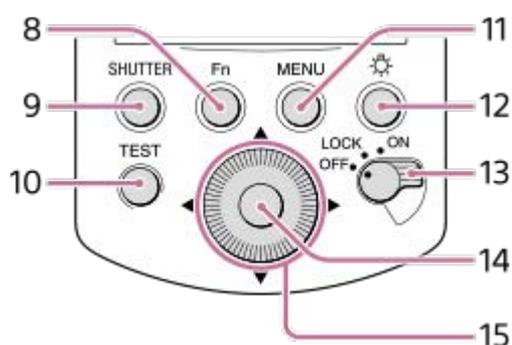
- リモートリリース撮影には、電波式ワイヤレスレシーバー（別売）とマルチ端子用接続ケーブル（別売）が必要です。
-

[4] ご使用前に

各部の名称



操作部



1. LINKランプ
2. 液晶表示部
3. ⚡ (シンクロ) ターミナル
4. マルチ/マイクロUSB端子
リモートリリース撮影時に、本機とカメラを接続します。
5. ロックレバー
6. マルチインターフェースフット
7. バッテリーカバー
8. Fn (ファンクション) ボタン
設定変更用の画面 (クイックナビ画面) に表示が切り替わり、すばやく設定値を変更できます。
9. SHUTTERボタン
リモートリリース撮影時に、電波式ワイヤレスレシーバーに接続されたカメラのシャッターを切ります。
10. TESTボタン
撮影前のテスト発光を行います。
11. MENUボタン
12. ⚙ (液晶表示部照明) ボタン
液晶表示部とボタン周辺の照明を点灯または消灯します。
13. 電源スイッチ
「LOCK」にすると、コントロールホイールなどのボタンが無効になります。誤って設

定を変更してしまうことを防ぎます。

14. 中央ボタン

メニュー画面で選んだ設定項目を決定します。

15. コントロールホイール

クイックナビ画面やメニュー画面でカーソル（白黒反転表示）を移動させたり、設定値を変更します。

また、撮影時は左ボタンに調光補正/光量レベル設定が、右ボタンにレシーバー個別設定が割り当てられています。

コントロールホイールの使いかた

本機ではコントロールホイールを使って、表示されている画面に応じた操作ができます。

通常表示画面

左ボタンに調光補正/光量レベル設定が、右ボタンにレシーバー個別設定が割り当てられています。

クイックナビ画面

コントロールホイールの上/下/左/右でカーソル（白黒反転表示）を移動させて設定する項目を選び、コントロールホイールを回して設定値を変更します。

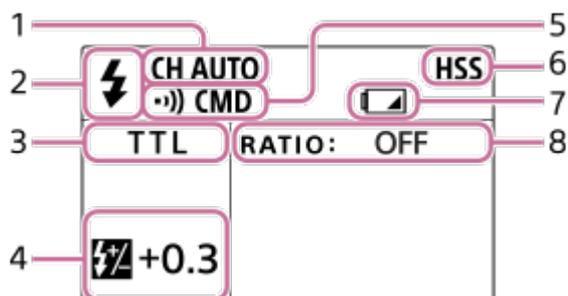
メニュー画面

コントロールホイールの上/下/左/右でカーソルを移動させて設定する項目を選び、中央ボタンを押して設定値を変更します。

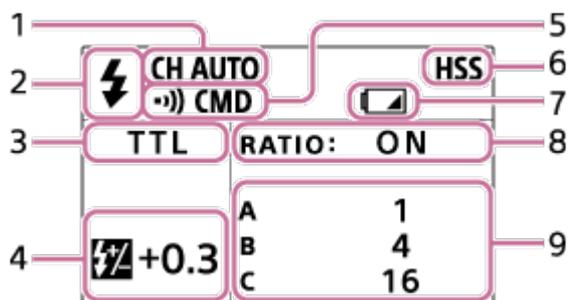
[5] ご使用の前に

画面表示

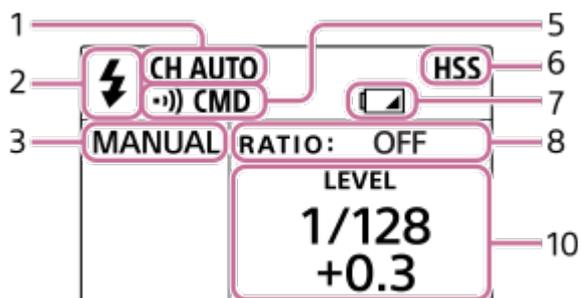
TTLモード



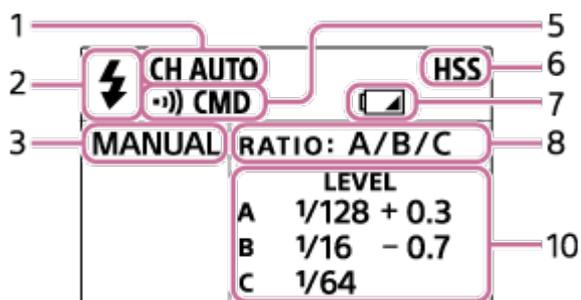
TTLモード（光量比制御時）



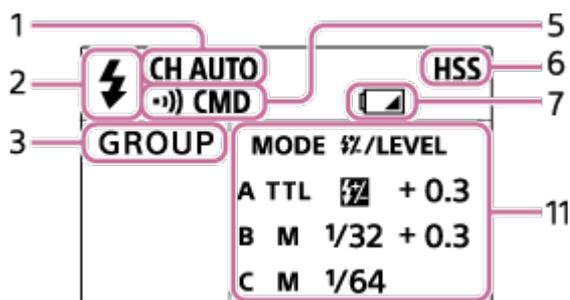
MANUALモード



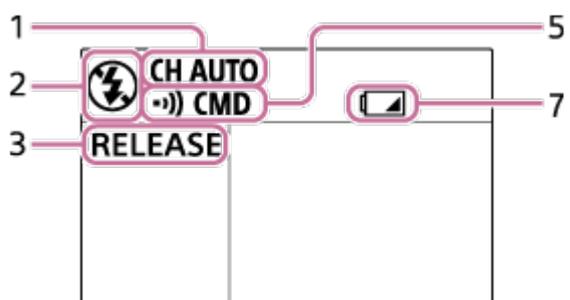
MANUALモード (光量比制御時)



GROUPモード



RELEASEモード



1. チャンネル
2. ワイヤレスフラッシュモード
ワイヤレスフラッシュ撮影時は  が、それ以外の場合は  が表示されます。
3. 撮影モード
4. 調光補正
5. 通信モード
6. ハイスピードシンクロ撮影
7. 電池警告
電池の残量が少なくなると表示されます。早めの電池交換をおすすめします。
8. 光量比設定
9. 光量比
10. 光量レベル
11. グループ設定（発光モード、調光補正/発光量）

クイックナビ画面について

Fnボタンを押すと、設定変更用の画面に表示が切り替わります（クイックナビ）。コントロールホイールを使って、すばやく設定値を変更できます。

メニュー画面について

MENUボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。さまざまな設定を変更できます。

[6] 準備する

電源を入れる

本機で使用できる電池は、以下のとおりです。

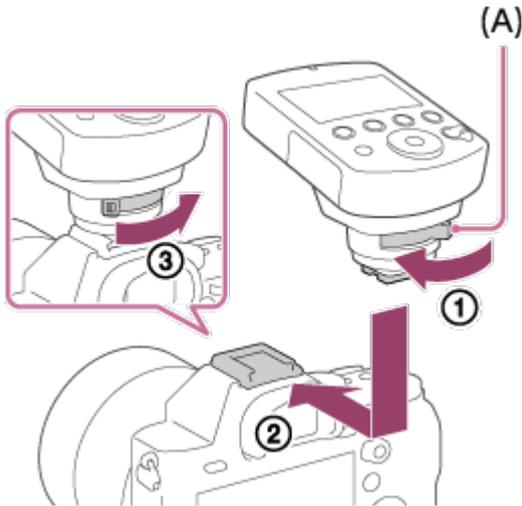
- 単3形アルカリ乾電池 2本
- 単3形ニッケル水素電池（Ni-MH）2本

ニッケル水素電池は、必ず指定の充電器で完全に充電してからお使いください。

1. バッテリーカバーを開け、電池（別売）を入れる。
 - 電池室の表示（）にしたがって電池を入れる。
（ は乾電池の向きを示しています。）
 2. 本機をカメラに取り付ける。
 - 本機の電源が入っていないことを確認してください。
 - 本機のマルチインターフェースフット、カメラのマルチインターフェースシューからキャップを取り外してください。
1. ロックレバー先端のリリースボタン（**A**）を押しながら、ロックレバーを

「RELEASE」の方向へ回す。

2. マルチインターフェースフットを、カメラのマルチインターフェースシューに矢印の方向に止まるまでしっかりと差し込む。
3. ロックレバーを「LOCK」の方向へ回し、本機を固定する。



3. 電源スイッチを「ON」にする。

本機の取り外しかた

本機の電源を切ってから、手順2-1を行って取り外してください。

- 本機を使用しないときや本機だけを持って使用するときは、マルチインターフェースフットにキャップを取り付けてください。

[7] 準備する

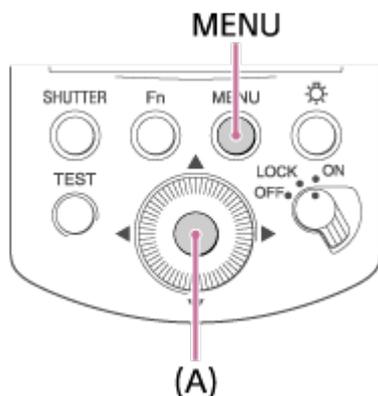
ペアリングする

本機を使用してワイヤレスフラッシュ撮影やリモートリリース撮影を行うために、本機と電波式ワイヤレスレシーバー（別売）をペアリングする必要があります。

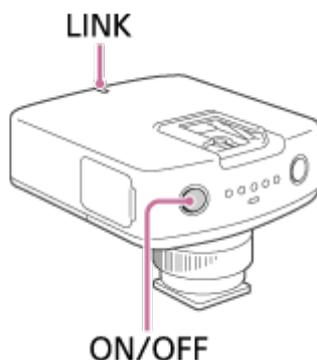
- ペアリングは、電波式ワイヤレスレシーバーとの距離が1m以内の状態で行ってください。
- ペアリング可能台数は15台までです。

1. 本機の電源を入れ、MENUボタン - [PAIRING] - [ADD] を選んで中央ボタン **(A)** を押す。

本機のLINKランプが緑色に点滅し、ペアリング画面が表示される。



2. 電波式ワイヤレスレシーバーの電源が入っていないことを確認し、電波式ワイヤレスレシーバーのON/OFFボタンを7秒以上押し続ける。
電波式ワイヤレスレシーバーの電源が入り、LINKランプが緑色に点滅する。



3. ペアリングが完了すると、電波式ワイヤレスレシーバーのLINKランプが緑色の点灯に変わる。
本機の画面に、ペアリングが完了した電波式ワイヤレスレシーバーの台数が表示される。



- 2台以上の電波式ワイヤレスレシーバーを本機とペアリングする場合は、続けて手順2～3を繰り返してください。
4. 中央ボタンを押す。
ペアリングが終了し、本機のLINKランプが緑色の点灯に変わる。
- ペアリング操作後に本機や電波式ワイヤレスレシーバーのLINKランプが赤色に点灯しているときは、ペアリングされていません。手順1からやり直してください。

ペアリングを確認/解除するには

本機のMENUボタン - [PAIRING] - [LIST] を選びます。

RECEIVER LIST			MENU
NO.	NAME	LINK	
1	FA-WRR1	·))	
2	FA-WRR1	·))	
3	FA-WRR1	·))	

本機と電波式ワイヤレスレーザーが通信可能状態のときは、·))が表示されます。

ペアリングを解除する場合は、ペアリングを解除したい電波式ワイヤレスレーザーの  (削除) にカーソルを合わせて中央ボタンを押します。カーソルを合わせると、対応する電波式ワイヤレスレーザーのLINKランプが点滅します。

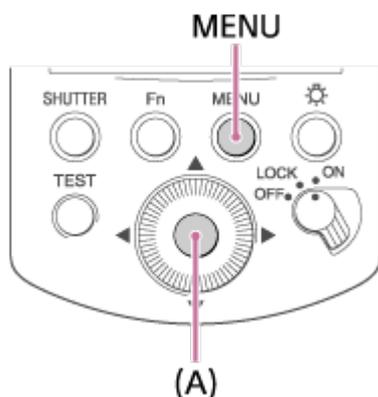
- ペアリングを解除する場合は、解除する電波式ワイヤレスレーザーの電源を入れた状態で行ってください。

[8] 撮影する

MENUでできること

本機やペアリングした電波式ワイヤレスレーザー（別売）の設定の変更や確認ができます。

1. MENUボタンを押し、希望のメニュー項目にカーソルを合わせて中央ボタン **(A)** を押す。



HSS (ハイスピードシンクロ)

ハイスピードシンクロのオン/オフ、および発光レベル設定を切り替えます。

RECEIVER SET (レーザー個別設定)

ペアリングした電波式ワイヤレスレーザーの設定の変更や確認ができます。

カーソルを合わせている項目に対応する電波式ワイヤレスレシーバーのLINKランプが点滅します。

RECEIVER SET		MENU		
NO.	NAME	LINK	GP	ZOOM
1	FA-WRR1	·))	A	24
2	FA-WRR1	·))	OFF	70
3	FA-WRR1	-	-	-

設定を変更または確認できる項目

NAME（名前）

電波式ワイヤレスレシーバーの名称が表示されます。

LINK（リンク状態）

通信可能状態の場合、·))が表示されます。

GP（グループ）

電波式ワイヤレスレシーバーのグループを確認/変更できます。

- 電波式ワイヤレスレシーバーのREMOTEランプが点灯している場合のみ、本機からグループを変更できます。
- グループを [OFF] にすると、その電波式ワイヤレスレシーバーに取り付けられたフラッシュ（別売）はワイヤレスフラッシュ撮影時に発光しなくなります。

ZOOM（照射角）

電波式ワイヤレスレシーバーに取り付けられたフラッシュの照射角を確認/変更できます。

- フラッシュの照射角がAUTOの場合のみ、本機から照射角を変更できます。

設定を変更するには

1. コントロールホイールの上/下/左/右ボタンで設定したい電波式ワイヤレスレシーバーのGP（グループ）またはZOOM（照射角）にカーソルを合わせて中央ボタンを押す。
2. コントロールホイールを回して設定を変更して、中央ボタンを押す。

CH SET（チャンネル切り替え）

ワイヤレス通信で使用するチャンネルを設定します。[AUTO] に設定すると、本機の電源を入れるごとに周囲の電波状況に適したチャンネルが使用されます。

PAIRING（ペアリング）

電波式ワイヤレスレシーバーとペアリングします。

TEST（テスト発光）

テスト発光のモードを設定します。

TTL LEVEL MEMORY（TTL光量メモリー）*

TTL光量メモリー機能のオン/オフを切り替えます。

*この機能は、本機のソフトウェアVer.2.00以降で使用できます。

LEVEL STEP（レベルステップ）

光量レベルの設定幅を設定します。

POWER SAVE（パワーセーブ設定）

パワーセーブまでの時間を設定します。

VERSION（バージョン表示）

本機やペアリングした電波式ワイヤレスレシーバーのソフトウェアのバージョンを表示します。

RESET（リセット）

発光モードや発光量の設定値をリセットします。

- MENUの設定値はリセットされません。

INITIALIZE（初期化）

工場出荷状態に戻します。

- ペアリング情報も削除されます。

[9] 撮影する

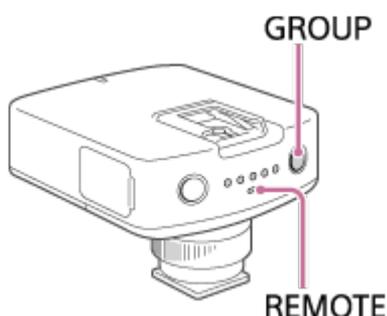
グループについて

ペアリングした電波式ワイヤレスレシーバーを最大5つのグループに分けることができ、グループごとに発光モードや発光量を設定できます。

電波式ワイヤレスレシーバーのREMOTEランプの状態を切り替えて、2通りのグループ設定方法を使い分けることができます。

グループの設定方法を切り替えるには

1. 電波式ワイヤレスレシーバーのGROUPボタンを2秒以上押して、REMOTEランプを点灯/消灯させる。



本機でグループを変更する

1. 電波式ワイヤレスレシーバーのREMOTEランプを点灯させる。
2. 本機のMENUボタン - [RECEIVER SET] でグループを設定したい電波式ワイヤレスレシーバーを選択してグループを設定する。

電波式ワイヤレスレシーバーでグループを設定する

1. 電波式ワイヤレスレシーバーのREMOTEランプを消灯させる。
2. 電波式ワイヤレスレシーバーのGROUPボタンを繰り返し押して、希望のグループのGROUPランプを点灯させる。

[10] 撮影する

ワイヤレスフラッシュ撮影

ペアリングした電波式ワイヤレスレシーバー（別売）にフラッシュ（別売）を取り付けて、さまざまな発光モードでワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

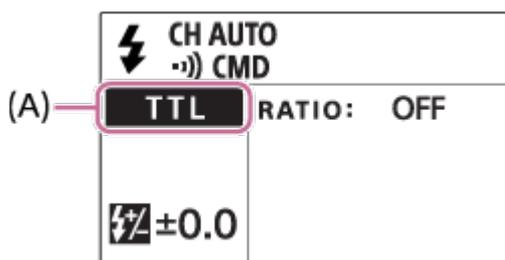
カメラの撮影モードを【プログラムオート】、【絞り優先】、【シャッタースピード優先】または【マニュアル露出】に、【フラッシュモード】を【ワイヤレス】に設定してください。

ご注意

- 電波式ワイヤレスレシーバー（別売）に取り付けたフラッシュの発光モードはTTLモードに、照射角（ズーム）はAUTOに設定してください。
- HVL-F32Mをお使いの場合、MANUALモードでハイスピードシンクロ（HSS）撮影を行うときは、HVL-F32Mを含むグループの発光量を1/16以上に設定してください。

撮影モードと設定を変更するには

1. Fnボタンを押す。
2. コントロールホイールの上/下/左/右ボタンで撮影モード **(A)** や各設定項目にカーソルを合わせて、コントロールホイールを回して希望の設定を選ぶ。



TTL（TTLフラッシュ撮影モード）

カメラの測光をもとに、フラッシュの発光量を自動で設定します。グループはA～Cの3つまで設定できます。

⚡ CH AUTO -)) CMD		
TTL	RATIO:	ON
☒ +0.3	A	1
	B	4
	C	16

設定できる項目

光量比

グループごとの光量比を設定します。

調光補正

MANUAL（マニュアルフラッシュ撮影モード）

フラッシュの発光量を手動で設定して撮影します。グループはA～Cの3つまで設定できます。

⚡ CH AUTO -)) CMD	
MANUAL	RATIO: A/B/C LEVEL
	A 1/128 + 0.3
	B 1/16 - 0.7
	C 1/64

設定できる項目

発光量

グループごとの発光量を設定します。

GROUP（グループ発光撮影モード）

グループごとに発光モードを設定して撮影します。グループはA～Eの5つまで設定できます。

⚡ CH AUTO -)) CMD	
GROUP	MODE ƒ/LEVEL
	A TTL ☒ + 0.3
	B M 1/32 + 0.3
	C M 1/64

設定できる項目

発光モード

グループの発光モードを設定します。

グループA、BおよびCは [TTL] または [MANUAL] から選べます（グループDとEは [MANUAL] のみ）。

発光させない場合は、 [OFF] を選びます。

調光補正（ [TTL] モードのみ）

発光量（ [MANUAL] モードのみ）

ヒント

TTL発光量メモリー機能*

TTLフラッシュモードで撮影した際、調光された発光レベルがマニュアルフラッシュモードの発光レベルに自動的に反映されます。マニュアルフラッシュ撮影時に、TTLフラッシュモードで撮影したときの発光レベルを基準として調整が可能なため、発光レベルを追い込んでいく際に作業を省くことができます。

TTL発光量メモリー機能の設定は、MENU設定の [TTL LEVEL MEMORY] から変更できます。

*この機能は、本機のソフトウェアVer.2.00以降で使用できます。

- 複数灯でのワイヤレスフラッシュ撮影を行った場合、各フラッシュの設定状況（ZOOM設定など）により、GN（ガイドナンバー）が変化します。適切な発光レベルを保持するには、各フラッシュを別のグループに設定してください。
- 複数灯でのワイヤレスフラッシュ撮影の際にTTL発光量メモリー機能をサポートしていないフラッシュが含まれている場合、適切な発光レベルが保持されない場合があります。
- TTLフラッシュモードで撮影した際の発光レベルがマニュアルフラッシュモードで保持されるため、撮影後に発光レベル設定やZOOM設定などの発光量に関わる設定を行っても保持されません。設定を行った場合は、もう一度TTLフラッシュモードで撮影してください。
- TTLフラッシュモードで撮影した際に調光された発光レベルが、マニュアルフラッシュモードで設定可能な発光レベルより低い場合、露出オーバーになることがあります。

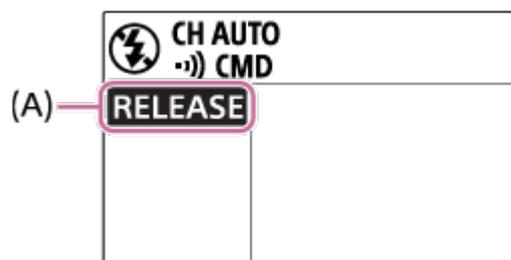
[11] 撮影する

リモートリリース撮影

ペアリングした電波式ワイヤレスレシーバー（別売）とカメラを接続して、本機の操作でリモートリリース撮影ができます。

1. 電波式ワイヤレスレシーバーのマルチ/マイクロUSB端子と、使用するカメラのマルチ/マイクロUSB端子をマルチ端子用接続ケーブル（別売）で接続する。
2. 本機のFnボタンを押す。
3. コントロールホイールの上/下/左/右ボタンで撮影モード **(A)** にカーソルを合わせ

て、コントロールホイールを回して [RELEASE] モードを選ぶ。



4. SHUTTERボタンを押して撮影する。

- 本機のマルチ/マイクロUSB端子とカメラのマルチ/マイクロUSB端子をマルチ端子用接続ケーブルで接続している場合、接続したカメラも撮影を行います。

カメラのシャッターボタンで撮影するには

本機を取り付けたカメラのシャッターボタンを押すことでも、リモートリリース撮影ができます。

本機をカメラのマルチインターフェースシューに取り付けて、カメラのシャッターボタンを押してください。

- カメラの [フラッシュモード] を [ワイヤレス] に設定してください。
- 本機のマルチ/マイクロUSB端子とカメラのマルチ/マイクロUSB端子をマルチ端子用接続ケーブルで接続する必要はありません。

ご注意

- リモートリリース撮影時にフラッシュ（別売）を使用する場合は、カメラのマルチインターフェースシューにフラッシュを直接取り付けてください。フラッシュを電波式ワイヤレスレシーバーのマルチインターフェースシューに取り付けても、フラッシュは発光しません。

[12] 使用上のご注意

使用上のご注意

本機について

- カメラに本機を取り付けたまま、かばんなどに入れて持ち運ばないでください。カメラおよび本機が壊れる恐れがあります。
- カメラに本機を取り付けたまま、本機を持って持ち運ばないでください。故障の原因になります。
- バッテリーカバーを閉める場合、バッテリーカバーをしっかりと抑えながら閉めてください。このとき、指などはさまないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

電池について

- アルカリ乾電池は、温度や保管のしかたによっては、電池残量が実際の残量よりも低く検出され、電池警告表示が出る場合があります。このような場合でも、本機をしばらく使用すると電池残量が回復することがあります。
- ニッケル水素電池は、電池残量が残り少なくなると急激に性能が低下します。撮影中に突然電池警告表示のみが点滅して本機が使用できなくなったり、電池警告表示が点滅し始めてすぐに使用不可能になることもあります。
- 長期間ご使用にならないときは、電池を取り外して保管してください。

使用温度について

- 本機の使用温度範囲は0℃～ 40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに本機を放置しないでください。
- 急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、屋外でビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新しい電池を使う、保温した予備の電池を用意して温めながら交互に使う、などの点に留意してご使用ください。また低温下では、電池の残量が残っていても一時的に電池警告表示が点滅することがあります。なお低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復し再び使えるようになります。

その他のご注意

保管するときは電池を外してください。発火、液漏れの原因となることがあります。

お手入れのしかた

本機をカメラから取り外し、柔らかい布でから拭きしてください。砂がついたときは、こすると傷が付きますので、ブローアで軽く吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いてから、もう一度から拭きしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。